



アカシア俳句会



元

令和五年 秋季俳句会「句報」 「秋」の季語を含む作品一〇五句

「選句」 赤文字：特選

「投句」 作品

作者

茂元	博	茂志	光元	佑敏由福秀	敏	元	展恵由福秀	秀	佑茂由福志	展	茂	佑敏巨秀
お勝手の小窓から見る満月や 異常気象虫の音にやや涼を得て 食事制限今宵お休み栗ごはん すすきの穂空のあなたにさようなら 真っ直ぐに散りては咲いて萩の花	野本展子 野本展子 野本展子 野本展子 野本展子	夕焼け空ふとん太鼓の綱光り スクラムが崩れ球飛ぶ秋の空 景色とび駆ける大和路彼岸花 無人駅黄金田向こう村の屋根 朝顔の実はじけ小窓黒き種子	加龍恵子 加龍恵子 加龍恵子 加龍恵子 加龍恵子	磯の香の誘う伊勢路や曼珠沙華 振れ多き老いの哀楽芒の穂 姦しく潔む沿道祭り跡 お願いに天心渡る流れ星 ケイブルカ栄華の後の芒原	戸堂博之 戸堂博之 戸堂博之 戸堂博之 戸堂博之	朝月夜せんなきことと知りながら 秋夕陽帰らぬ友の棲むところ 鉄格子名月吠えるナイトズー 林檎剥き僅かに軋む膝がしら 老蝶の夢だきしめて電車道	藤井光正 藤井光正 藤井光正 藤井光正 藤井光正	温暖化暑い暑いで十月に コスモスがゆらりゆらりと風任せ 秋深し腕組みのまま時すぎる むくどりの大群去って秋深む 春日山鹿食べる草枯れ野色	都 福仁 都 福仁 都 福仁 都 福仁 都 福仁			

終末時計九十秒の秋の朝
 光志 清志郎聴きつつ夏のやうな秋
 佑茂 亘博 この星に戦は絶へず秋暑し
 光秀 サザン聴きつつワイン飲む秋の夜
 佑亘 山中湖畔高き闇より秋火花
 山家由紀
 山家由紀
 山家由紀
 山家由紀

徳 炎暑去り静寂(しじま)の夜風心癒(い)ゆ
 以 身を包む爽涼の気や命(いのち)醒(さ)む
 徳展由 台風の天空拭(ぬぐ)ひ星清(さや)か
 徳博 疫(えき)風靡逢(ひ)難(き)日々秋深(し)
 以福 句を捻(ひね)り秋を愉(む)しむ老(い)の日々
 網 佑子
 網 佑子
 網 佑子
 網 佑子

以 秋日和全力疾走われウイナー
 惠福秀 新幹線矢のごと走る秋景色
 展 秋深し僻地へ一人鉄路踏む
 以 親子して進路迷いし秋の夜
 以 コロナ過ぎ対面うれし敬老日
 西村敏治
 西村敏治
 西村敏治
 西村敏治
 西村敏治

恵 笠深く手振り切々風の盆
 徳展敏 亘 恵由光博元志 我が影の日に日に伸びし秋気配
 光元志 草の穂にとんぼの重さ揺れており
 徳以敏 亘 恵博 櫛紅葉今を盛りと水鏡
 前田秀一
 前田秀一
 前田秀一
 前田秀一
 前田秀一

【選句についてお願い】

- 一、一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名 () 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、岩崎悦子(岩)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、斎藤優子(優)、佐藤茂弘(茂)
 戸堂博之(博)、中野亘子(亘)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、藤井光正(光)、前田秀一(秀)
 三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、元永悦子(元)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、吉田以登(以)

編集人 前田秀一